

国立大学法人愛知教育大学長の再任に係る審査結果について

令和5年8月8日
国立大学法人愛知教育大学
学長選考・監察会議

国立大学法人愛知教育大学学長選考・監察会議において、「国立大学法人愛知教育大学学長選考・監察会議規程第4条第3号」、「国立大学法人愛知教育大学学長選考規程第13条」及び「国立大学法人愛知教育大学学長の業績評価実施細則」に基づき、学長の業績評価を行い、下記のとおり決定した。

記

1. 次期学長候補者

氏名 野田 敦敬（のだ あつのり）

2. 任期 令和6年4月1日～令和8年3月31日

3. 審査結果 再任を可とする

4. 選考理由

学長選考・監察会議は、野田敦敬現学長が、令和6年3月31日をもって任期満了を迎えることから、「国立大学法人愛知教育大学学長選考規程」第13条に基づき、「国立大学法人愛知教育大学学長の業績評価実施細則」に定める資料及び「再任に向けた所信表明書」の確認、学長面談、監事からの意見聴取等による業績評価を実施し、審議を行った結果、全会一致で再任を可とする決定をした。

同学長は、令和2年4月就任当初から、新型コロナウイルス感染症拡大という未曾有の社会情勢の中において、リーダーシップを発揮し、円滑な学内運営や授業運営に加え、「未来共創プラン」を着実に進めてきた手腕は高く評価できる。また、率先して学外の教育行政機関（県・市教育委員会）や学校現場等に赴き、精力的に愛知教育大学の魅力ある取り組みの発信に努めるとともに、学内・学外からの意見に真摯に耳を傾け、様々な問題の解決に努めてきた粘り強い姿勢も評価できる。更に、「再任に向けた所信表明書」には、新たな2年間のミッションステートメントが明確に示されており、当初掲げたビジョンの実現が大いに期待できるものと判断した。

なお、再任の期間においては、研究力の更なる向上と社会・教育現場での成果の発現に務めるとともに、附属学校園を含めた「チーム学校」体制を確立して、中部地域の広域拠点型教員養成大学としての存在感をより一層高めることを期待する。併せて、評価・人事制度の改革の加速化、国立大学法人としての経営強化に積極的に取り組むことを期待する。

以上に鑑み、学長選考・監察会議は、同学長が、「国立大学法人愛知教育大学学長選考基準」に求められる資質と能力を有し、引き続き、国立大学法人愛知教育大学の更なる発展をリードしていく学長として適任であると判断した。

5. 選考過程

○令和5年3月16日（令和4年度第3回学長選考・監察会議）

野田学長の再任の手続きを進めることについて確認を行うとともに、再任に向けた手続き及び審議する資料の確認を行った。

○令和5年7月20日（令和5年度第1回学長選考・監察会議）

業績評価を行う資料の確認及び面談等を行い、審議した結果、再任を可とする決定をした。